

横井小楠講座（会場、オン・ライン） 第2回

秋津公民館

2023.1.22

龍馬との無意味な業績の比較検証をすることなく、

小楠の実像を受け入れるために

1 現在、"超"がつくほど有名で、英雄である坂本龍馬。当時を書いた文書に名は出ない。

- (1) 日本の歴史家（山路愛山）
- (2) グリフィス（ザ・ヤトイ）
- (3) イギリス外交官
- (4) 医師ベルツ

2 龍馬の名が世の中に知られ、超有名人になっていった経緯

- (1) M13.「南の梅血汐の曙」
- (2) M16.「汗血千里駒」
- (3) M38.「宮内庁伝記」
- (4) S37. 司馬遼太郎の「竜馬がゆく」 大ヒット
 - ① 映像 初代坂本龍馬：北大路欣也、第二代：中村錦之助、---原田芳雄、---
藤岡弘、---福山雅治、---内野聖陽（仁）--- **イメージが定着**
 - ② 教科書 ※教科書は、「今のところ正しい」であって、絶対ではない。

3 亀山社中・薩長同盟・海援隊の真実の姿

- (1) 1864.5.幕府神戸海軍操練所 海舟塾 塾頭：坂本龍馬
7ヵ月後海舟罷免
- (2) 1865.4.操練所廃止
- (3) 亀山社中 (廃止から2ヵ月後)
- (4) 銃7,800丁 軍艦
- (5) 1866.2.薩長同盟
- (6) 1867.3.脱藩を解かれ、土佐の海援隊長へ（陸援隊長：中岡慎太郎）
- (7) 1867.11.暗殺（京都で、二人同時に）

4 罵倒事件の場면을捏造した戦後生まれの国学者の文書が存在する。

同様に、当時書いたとされる龍馬の膨大な文書も存在する。「当時無名であった」という事実に適合しない。この矛盾は、後に作成された可能性が極めて高いことを示す。科学的な時代測定法(14C)で文書が書かれた時代を特定し、真偽を分けたあと評価するのが普通の考え方。

現在の龍馬像は、完全なフィクションとして扱うのが正しい。

長州の権力志向とその手段「尊皇」

毛利元就(1497～1571年)の頃からの家風。当時の正親町天皇が財政的な理由で即位式を延期をしていた時、多額の献金をし、天皇から直筆の文をもらう。以来、長州は尊皇がステイタス。

徳川家康とともに豊臣秀吉を支える5大老の一人でもあった毛利輝元は、1600年関ヶ原の戦いで西軍の主将として祀り上げられたが、戦場に出ることもなく大阪城にこもったまま、その軍3万は一発の鉄砲さえ撃つことなく徳川家康に降伏した。北にいる上杉景勝とともに一気に家康軍を挟み撃ちにできるまたとない機会をみすみす見逃しただけでなく、家康からは武将としての態度を強くとがめられ、10か国120万石から防長2か国36万石に大きく減らされてしまった。

以来幕末まで不名誉と徳川への怨念を引きずることになった。嫌な過去から逃れる唯一心の支えは尊皇。

1864年、宮部鼎三ら尊皇攘夷派が新選組に襲われた池田屋事件をきっかけに長州の急進派が京都に集結。薩摩、会津、桑名の藩兵と皇居内外で戦い敗走した。その際、御所に鉄砲を撃ったことで「朝敵」となる。唯一のプライドであった「尊皇」から一瞬にして奈落の底の「朝敵」になってしまった。

高杉晋作が幕府の長州征伐の後、幕府に恭順しようした保守派の弱腰に腹を立て、奇兵隊を組織し保守派から主導権を奪い倒幕へ藩論を向けた。幕府によってかかされてきた恥を「またか」と思っただけの行動とも考えられる。

1866年薩長同盟の時も、長州の桂小五郎は、「朝敵」からの名誉回復に協力するよう西郷に強く求めている。

○ 幕府への恨みを晴らす。

○ 朝敵という屈辱から脱出する。

この二つは長州にとって極めて重要なことであった。

幕府への恨みを晴らした後は、残るのは「朝敵」の消去である。そのためには「尊皇」を形として表さなければならない。それが、天皇大権という形で生まれた。長州による形ばかりの「尊皇」ショーが明治に始まった。

孝明天皇毒殺（説）事件

孝明天皇は「攘夷」を強く唱えてはいたが、その攘夷はあくまで幕府による攘夷で、そのため公武合体を主張し、妹の和宮を將軍家茂に嫁がせていた。孝明天皇の「攘夷の意思」が、攘夷派貴族と長州が朝廷内に入り込む余地を与えはしたが、最後まで幕府による攘夷であった。

1862. 3.11 公武合体(攘夷を条件)の象徴として皇女和宮が降嫁。

1862. 5.14 公武合体推進のため、島津久光兵を率いて入京。

1862. 5.21 久光の命令で、薩摩藩攘夷派一掃される。(寺田屋事件)

1862. 7. 3 島津久光、朝廷からの「三事策」改革を幕府に求める。

1862. 8. 1 慶喜：將軍後見職、春嶽：政治総裁職へ。同時に横井小楠（政治顧問）も江戸着。国是七條を春嶽を通じて建言、幕閣に説明して回る。

1863. 2. 7 横井小楠、熊本藩留守居役吉田邸で襲われる。

1863. 4.21 將軍家茂上洛(229年ぶり) ※小楠、随行できず。

1863. 6. 6 將軍家茂、期限を切った攘夷を孝明天皇に約束。

1863. 9.30 「8月18日の政変」七卿の長州落ち。京都の攘夷派一掃。

1864. 8.20 禁門の変(孝明天皇を誘拐し長州に連れて行く計画)

1866. 3. 7 小松、西郷、桂が京都で薩長協調を話し合う。

1866. 7.18 幕府第二次長州征伐（薩摩出兵せず）

將軍徳川家茂（和宮の夫）大阪城で死去
第二次長州征伐失敗

1866. 9.28 幕府、フランスから600万ドルの借款契約成立

1866.10.10 幕府、長州和解成立

堂上(昇殿を許された)公家22卿が大挙参内して天皇に謁見嘆願。数の力で天皇に王政復古をさせる狙い（背後に長州）。孝明天皇は激怒して、不敬罪として処分。

1867. 1.10 徳川慶喜將軍宣下(15代將軍)・同時に内大臣に

1867. 1.30 **孝明天皇死去 痘瘡に罹り全祝まじかに激しい嘔吐と下痢。御九穴より御脱血。断末魔の苦しみのうちに死去。顔には紫色の斑点。（ヒ素毒殺説の根拠）**

1867. 4.29 イギリス公使だけが將軍を陛下ではなく「殿下」とする。

1867. 5.18 フランス新外相ムスティエ、600万ドル借款拒否。

1867.11. 9 徳川慶喜政権返上を(明治)天皇に上奏(大政奉還)。

1868. 1. 3 王政復古の大号令。將軍辞職を勅許。1.28鳥羽伏見戦い

「師小楠と弟子龍馬」、本来の信頼し合う師弟の姿へ」

1 明治初期の頃を書いた書物に、坂本龍馬の名前は出てこない。(1)～(4)は確認済。

(1) 山路愛山 (1865～1917) 明治39年「日本教会史」 徳富蘇峰と共に2大歴史家といわれる。

横井小楠の日記に、明治元年の末に於いて森金之丞（故子爵森有礼）と大に米国議院の事を論じ、快談夜を徹すと云える一節あるは事実なり。翁が当時において血統を崇ぶ旧習を排斥し、適材をして適所に在らしむるを主張したるは事実なり。

大名の華族と改称せられしとき、熱頭冷舌なる福沢諭吉が「煮た飯を喰ふもの之を華族と言ひ、生の飯を喰ふもの之を乞食という」と罵倒したるも事実なり。

神道教を設くるとは、彼らが宗教に対する最好の態度にして、彼等は遂に是より以上を以て宗教に要求すること無く、又しかすることを欲せざりしなり。（逃げ道と特殊性を保持）

22歳でキリスト教入信。(5)「防長回天史」(M3廃藩置県までの長州の活躍をまとめたもの)の編纂にも携わったことから、神道系からも認められた学者であろう。政治的に動いた人物は、ほとんど網羅されている。【文中で紹介された主な人物】

荻生徂徠、賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤、安井息軒、**横井小楠**、森有礼、福沢諭吉、加藤弘之、井上馨、黒田清隆、ドラクルー、モンテスキュー、西周、岩倉具視、木戸孝允（桂小五郎）、大久保利通、寺島宗則、伊藤博文、大隈重信、西郷従道、新島襄、中村正直、島津久光、頼山陽、マコレー、会沢正志斎（伯民）、吉田松陰、フルベッキ、西郷隆盛（南洲）、西園寺公望、川路利良、板垣退助、海江田信義、モールス、ベンサム、ミル、ダーウィン、コペルニクス、徳富一敬（淇水）、徳富蘇峰、横井時雄、内村鑑三、海老名弾正、（徳川、薩長） ※**“横井小楠は儒学者”**としている。

◎ 西郷、大久保、桂、岩倉らの名前は出ているが、**坂本龍馬の名前はない。**

◎ その本の中で、時代背景として明治14、5年ぐらいまでの状況を述べている。

(2) W.E.Griffis (1843～1928) 米国 大正4年「The Mikado」(明治政府ヤトイの第一号) 明治天皇の死去あたりの追想録(幕末～維新～明治)。天皇史観に真っ向から逆らう内容が、赤裸々に語られている。政治に関係した人は網羅。フルベッキや**勝海舟**、由利公正などから話を聞いていた。

(3) A.B.ミットフォード 「イギリス外交官の見た幕末維新」やアーネスト・サトウの記録「幕末維新回想録」など

(4) エルヴィン・ベルツ 「ベルツの日記」(皇室付きのドイツ人医師・東京帝大教授) 日本と日本人の在り方を具体的に取り上げ、在日約30年間、良いこと悪いこと関係なく自分の感じたままを述べた日記。



グリフィス

【他に確認できそうな資料】

(5) 防長回天史 長州の藩主が、幕末から維新にかけて長州が天下を動かした状況を纏めた本。

(6) 望月小太郎著 大正3年 日本名「世界評論明治大帝と我国民性」 明治天皇崩御を伝える世界の新聞記事をもとに執筆したもの。

(7) 「由利公正伝」 由利正通著



ベルツ

2 **薩長同盟に坂本龍馬は関係していない。**常識になっている「中心になって薩長同盟に働いた」と、**誰が、何を根拠に**言い出したのか不明。

3 **坂本龍馬の名が初めて出てきたのは、明治13年。16年に新聞で世に知られる。**

(1) 仕掛け人は、土佐の自由民権運動家、坂崎紫瀾（1853.12.18～1913.2.17）。

M13 征韓論で下野(M6)した板垣退助は、大久保利通を中心とした明治政府の御誓文無視の独裁的な動きに対抗し「民撰議院設立建白書(M7)」を後藤象二郎、江藤新平、副島種臣、由利公正等とともに提出した。また、板垣は土佐で「立志社」を設立し、機関誌「土陽(高知)新聞」を発行した。その編集長に就任したのが坂崎紫瀾である。坂崎は明治13年9月から間崎滄浪、平井収二郎、坂本龍馬といった幕末、明治維新で活躍した土佐の志士たちが登場するフィクション（創作）の歴史政治小説「南の海血汐の曙」の連載を始める。

M16 明治政府（薩長幕府）による自由民権運動弾圧に対抗する政治小説を土陽新聞で連載。自分たちの政治思想を新聞で主張した。それが坂本龍馬を主人公にした政治小説「汗血千里駒」であった。

1865年土佐勤王党弾圧で武市半平太、間崎滄浪ら主だったメンバーは切腹、或いは処刑されていた。脱藩して、土佐に居なかった龍馬が生き残った。龍馬ブームがおこる。

(2) 「神がかりの英雄坂本竜馬」は、明治皇后の夢枕から。 宮内庁「伝記」：真偽は曖昧模糊

① 明治皇后の枕元に二晩続いて現れ「日本海軍の生みの親、坂本龍馬」と名のり、「今度の戦（バルチック艦隊との戦い1905.5）は、私が勝たせる。」と告げた。

② 皇后が職員に二晩続けて起こったことを話し、坂本龍馬と名のつたと伝えた。職員が写真を持ってきて「この男ですか」と尋ねると、皇后は、「この男だ」と答えた。第二次龍馬ブーム。（英雄、神格化）---神風を信じる人には真実となる。 全国新聞で紹介

4 龍馬の絶対的印象を刷り込んだ、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」（司馬は名前の漢字を「竜」にすることで、フィクションであることを明らかにしていたが、・・・独自の歴史観と臨場感あふれる筆力に史実と誤解される事態を招く）

S37 TV時代の始まりで、月光仮面などの架空の超人的な英雄が人気を博していた時流に乗り、司馬遼太郎の筆力で、龍馬も一気に神がかり的な英雄の仲間入り。

映画、TVなどマスメディアが急速に発達してきた時流に乗り、多くの名優（個性俳優）が坂本龍馬を演じ、俳優の個性が龍馬に投影された。それによって坂本龍馬の**イメージが固定化**され人々の脳裏に焼き付けられた。俳優：北大路欣也、萬屋金之助、原田芳雄、藤岡弘、武田鉄矢、福山雅治、内野聖陽・・・※第三次龍馬ブーム

※ 坂本龍馬の写真は2種ある ※二人の龍馬 [ウィキペディア]



坂本龍馬座像。慶応3年頃撮影

【龍馬のデータ】

特徴

6尺の大男

愛刀

陸奥守吉行

直刀67cm

※ 顔の大きさを同じくらいにして、全体の雰囲気から体の大きさを比較。

左：顔と首に酷い痘瘡の痕。

本当の龍馬は、我々が写真で見て知っている人物とは違う可能性が非常に高い。